

南方漢語のモダリティ標識「有」について

—— 臺灣海陸客家語を中心に ——¹⁾

遠 藤 雅 裕

1. はじめに

閩語・客家語・粵語などの南方漢語には、動詞句（形容詞句を含む）に前置される「有」があるが、これは本来標準中國語をはじめとする北方漢語にはみられないものである²⁾。このような「有」の機能については、モダリティ標識・アスペクト標識・過去時制標識という三つの説があり、現在前二者が有力な説となっている。

本論では、主として臺灣閩南語を中心とした研究成果（アスペクト標識説とモダリティ標識説）をふまえ、臺灣海陸客家語³⁾の動詞句に前置する「*ziu*⁵³有」⁴⁾（以下単に「有」と表記）について初歩的な分析をおこなった。その結果、語義および使用条件について、暫定的な結論として、以下の三點を指摘したい。

- ① 「有」は、話し手がある事態が實現済み (realis) であると判断していることをあらわす。つまり實在性の領域 (Langacker 1991) に属することをあらわすモダリティ標識である。強調機能は、ここから派生したものであり、事態の程度ではなく、事態の發生・存在を強調している。
- ② 「有」は、状態動詞（形容詞）に前置されたり、条件節で用いられったりする場合、部分的状況をあらわすことがある。
- ③ 「有」には使用されやすい条件が、少なくとも二つある。一つはYes-No疑問文とその答え、もう一つは對比である。

なお、アスペクトとモダリティについては、以下のように定義しておきたい。まず、アスペクトとは、事態の内的な時間展開の仕方について、話し手がそれをどのように捉えているかをあらわすカテゴリーである (Comrie 1976、劉綺紋 2006)。アスペクトは完了相 (perfective) と非完了相 (imperfective) に大別される。

完了相は事態を外側から見たもので、事態そのものが一つの完結したものとして認識される。一方、非完了相は事態を内側から見たものであり、事態は完結したものではない。たとえば、標準中國語では、述語動詞に後置する「了」が完了相の標識として機能し、述語動詞に前置する「在」が非完了標識として機能する。つぎに、モダリティとは、事態に對する話し手の態度・認識などをあらわすカテゴリーである（澤田 2006、劉綺紋 2006）。これには、諸説があるが、認識的モダリティや力動的モダリティといったいくつかの下位カテゴリーが設定されている（たとえば Palmer 2001）。標準中國語の可能性をあらわす「可能」（～だろう）や「應該」（～はずだ）は認識的モダリティに、可能をあらわす「能」や「會」などなどは力動的モダリティに屬する。

本論であつかう海陸客家語の文例の大部分は、筆者の現地調査（2005年5月～2014年8月）で得られたものである。調査協力者は、臺灣新竹縣新埔鎮在住の詹智川氏（男性）である⁵⁾。詹氏は1939年生まれの前小學校教師であり、海陸客家語が第一言語、標準中國語が第二言語であるが、臺灣で廣く用いられている閩南語はほとんど解せず、使用言語ではない。なお、一部の文例は劉楨文化工作室編（2000）『一日一句客家話：客家老古人言』（臺北：臺北市政府民政局）・詹益雲編（2008）『海陸客語短篇故事第三集』（新竹：新竹縣海陸客家語文協會）⁶⁾ から引用している。

2. 漢語諸語の動詞前置「有」

前述のように、動詞句に前置する「有」は、漢語諸語（Sinitic languages）のうち閩語・客家語・粵語などの南方漢語に廣くみられる。本章では、臺灣の閩南語および客家語を中心として、「有」についての主要な先行研究の見解を概観する。

2.1. 閩南語の「有」

臺灣および福建の閩南語の動詞前置の「u有」については、以下のような三つの説が出されている。

- ① モダリティ標識説（Cheng（鄭良偉）1985、鄭良偉 1992、曹逢甫 1998など）
- ② アスペクト標識説（Chappell 1992、湯廷池 2000など）
- ③ 過去時制標識説（Yue 2011など）

以下、有力な説であるモダリティ標識説とアスペクト標識説を紹介しよう。

2.1.1. モダリティ標識説

モダリティ標識説では、「有」には事態が実現済み (realis) であると話し手が判断していることをあらわす機能や、事態の存在を強調する機能があるとする⁷⁾。なお、先行研究では、強調の機能が生じる原因については言及されていない。本論はモダリティ標識説を支持する立場であり、海陸客家語の分析に当たっては、つぎに紹介する鄭良偉および曹逢甫両氏の業績を参考にしている。

2.1.1.2. 鄭良偉 (1985, 1992) の見解

鄭良偉 (Cheng 1985, 1992) は、「有」について、以下の二つの機能、すなわち、(1) 事態が実現済みであることをあらわすこと、(2) 実現している事態の存在を強調することを指摘している⁸⁾。

漢語では已然 (realis) と未然 (irrealis) の対立が重要な意味をもっており、臺灣閩南語では未然の事態について、「beh□」(意志)・「ê會」(蓋然性)などの標識が義務的に用いられるのに対し、已然の事態については義務的に用いられる標識はない (Cheng 1985 : 357)⁹⁾。つまり、文は無標であれば已然の事態として解釈されるのである。またそれゆえ、已然の標識である「有」の使用は任意である (Cheng 1985 : 358)。たとえば、下記の例文 (1) は現在進行中の事態を、(2) は過去に進行していた事態をあらわしている。これらの意味は「有」がなくても変わらないが、「有」を加えることで、話し手がその事態を強く肯定していることをあらわす。

(1) Hiān-chāi (ū) put-sí teh m̄ng lāu-su.¹⁰⁾ (鄭良偉 1992 : 228)

現在 (有) 不時 □ 問 老師。

現在 YOU 常に PRO 問う 先生 (現在しきりに先生に質問している。)

(2) Khai-sí ê sí (ū) put-sí teh m̄ng lāu-su. (鄭良偉 1992 : 228)

開始 □ 時 (有) 不時 □ 問 老師。

始まる REL とき YOU 常に PRO 問う 先生

(始まったころしきりに先生に質問していた。)

一方、文中で、上例のような時制的成分〔hiān-chāi 現在〕や〔khai-sí ê sí 開始

□時) (始ったころ))、あるいは進行相標識「teh□」のようなアスペクト的成分がなく、「有」のみが用いられている場合は習慣的事態をあらわす。換言すれば、時間的な成分がない場合、習慣相については、「有」は義務的にもちいられる (Cheng 1985 : 358)。例文 (3) は「(ある種のを) 食べる」という行爲が習慣的であることをあらわしている。

(3) Ū chiáh bô? - Ū (chiáh). (Cheng 1985 : 356)

有 食 無 有 (食)。

YOU 食べる ない YOU (食べる) ((習慣的に) 食べているか? - (食べて) いる。)

2. 1. 1. 3. 曹逢甫 (1998) の見解

曹逢甫 (1998) は、動詞前置の「有」をモダリティ標識とし、過去時制標識説を退け、またアスペクト標識説についても否定的な見解を述べている。

曹逢甫は、「有」全体の語義を存在 (例文 4a)・所有 (例文 4b)・出現 (例文 4c)・已然 (存在相) (例文 4d)・強調 (例文 4e) の五つに分類した上で、後二者の「有」については、完了 (perfective) などのアスペクト標識ではなく、已然をあらわすモダリティ標識とし¹¹⁾、動詞句があらわす事態アスペクトの性質によってその解釈がことなることを指摘している。すなわち、活動型事態・達成型事態・點的事態については、活動型では事態がすでに発生しているという、また達成型・點的では事態がすでに完了しているというアスペクト的解釈、かつそれらの事態の存在を強調しているというモダリティ的解釈が可能である。一方、靜的事態については、「有」は話し手が主観的にその事態を強調・肯定とするモダリティ的解釈のみが可能である。たとえば、例文 (4)dの「有」は、買うという行爲が完了しており、なおかつそのような行爲が確かにあったことを強調しているという解釈になる。一方、靜的事態をあらわす例文 (4)eでは、「有」は花の色が赤いという状態が存在していることを、単に強調あるいは肯定しているという解釈になる。

(4) a. Chhù-lái ū lāng-kheh. (曹逢甫 1998 : 321)

厝 内 有 人 客。

家 中 YOU 客

(家の中にお客がいる。)

b. Góa ũ saⁿ khó gūn.

我 有 三 箍 銀。

1SG YOU 3 元 金

(わたしは3元持っている。)

c. Ū lâng lái--ah.

有 人 來 啊。

YOU 人 くる ANT

(やってくる人がいた。)

d. Góa ũ bé Tiō lâu-su ê chheh--ah.

我 有 買 趙 老師 □ 冊 啊。

1SG YOU 買う [人名] 先生 PAR 本 ANT

(わたしは趙先生の本を買った／ている。)

e. Hoe ũ âng.

花 有 紅。

花 YOU 赤い

((その)花は赤いのだ。)

「有」が完了相標識でないのは、それが非完了相標識との併用も可能であるからだ。たとえば、例文(5)のように、進行相標識の「teh」とも併用が可能である。このことから、「有」はモダリティ標識であり、そのアスペクトの意味は「有」とそれぞれの事態との相互作用ののちに派生したものである¹²⁾。

(5) I ũ teh sé-saⁿ--ah.

(曹逢甫 1998 : 326)

伊 有 □ 洗 衫 啊。

3SG YOU PRO 洗う 服 ANT

(彼／彼女は服を洗っていた。)

もっぱら「有」のみを標識として使用している文については、曹逢甫(1998)はCheng(1985)よりも詳細な分析をしており、習慣相と完了相の二つのアスペクト的解釈が可能であることを指摘している(例文6)。つまり、「有」は事態が実現していることのみ言及し、それが完了したか否かについては何も示していないのである。

(6) I ū chiah gú-bah.

伊 有 食 牛肉。

3SG YOU 食べる 牛肉 (彼／彼女は牛肉を食べた／(習慣として) 食べている。)

いずれにせよ、以上のように、曹逢甫説では、基本的には動詞句があらわす事態アスペクトのいかに問わず、「有」はモダリティ標識として機能するとしているのである。

ところで、「有」の強調機能について、Yue (2011: 57-58) は黄丁華 (1958: 192) の閩南語についての分析に基づいて、「有」は強調ではなく、肯定 (affirmative) であると指摘している。例文 (7) 「有紅」の「有」は、赤みをおびている状態を肯定している。これは部分的な指示機能ともいえよう。

(7) 你允是飲酒・面裡有紅。 (黄丁華 1958: 192)

(あなたはきつとお酒を飲んだにちがいない、顔が赤みをおびている。)

海陸客家語にも同様の特徴がみられるが、これについては、後述する。

2. 1. 2. アスペクト標識説

この説では、「有」は完了 (perfective) の下位カテゴリーである既然相 (anterior) あるいは完結相 (completive) 標識であるとする。しかし、これについては、上述のように曹逢甫 (1998) がすでに否定的な見解を述べている。「有」が非完了相標識との併用が可能であることや、強調機能をもつことも合理的に説明できない。以下、この説を唱える Chappell (1992) および湯廷池 (2000) の見解を確認する。

Chappell (1992) は、厦門閩南語の「有」をアスペクトの枠組みで解釋し、現在の事態は過去の事態の結果であることをあらわす既然相標識としている¹³⁾。よって例文 (8) は「わたしは (すでに) 彼／彼女見かけている」と解釋するのが妥当であろう。

- (8) Góa ũ khò^a-kìⁿ i. (Chappell 1992 : 81)

我 有 看見 伊。

1SG YOU 見かける 3SG (わたしは彼／彼女を見かけた／ている。)

なおChappell (1992) は、鄭良偉等のモダリティ標識説に言及しているものの、自身がアスペクト標識説をとる理由については、なにも述べていない。

湯廷池 (2000) も、「有」をアスペクトの枠内で解釋し、完結相（完成貌、completive aspect）動詞とみなしている。しかし、「動詞の前に出現する「有」は、これらの動詞が指示する動作あるいは事態が、すでに発生していることをあらわす。形容詞の前に出現する「有」は、これらの形容詞が指示する状態あるいは變化が、すでに存在することをあらわす」（湯廷池 2000 : 203）¹⁴⁾ と述べているように、解釋そのものはモダリティ標識説とほぼ一致する。例文 (10) のような、形容詞が指示する事態はもとより靜的事態であるが、曹逢甫 (1998) が指摘しているような、靜的事態について顕著な強調機能については言及がない。

- (9) I cha-àm ũ phah tiān-oē hō goá.

伊 昨暗 有 拍 電話 與 我。

3SG 昨晚 YOU かける 電話 ~に 1SG

(彼／彼女は昨晚わたしに電話をかけた／ている。)

- (10) Nāg hiaⁿ-tī-á ũ chhin-chhiūⁿ.

兩 兄弟仔 有 親像。

2 兄弟 YOU そっくりだ

((その) 二人の兄弟はそっくりだ。)

上述のように、閩南語の「有」についてモダリティ標識説とアスペクト標識説が存在するのは、「有」がモダリティ的な標識であるとはいえ、動詞句の事態アスペクト次第ではアスペクト的な解釋が可能であることに起因するといえる¹⁵⁾。

2.2. 客家語の「有」

客家語の「有」には、以下のように二つの説がある。

- ① モダリティ標識説（鄭榮 2005、林立芳 1997など）
- ② 過去時制標識（Hashimoto 1973：451）

現在、過去時制標識説をとる見解はみられないので、ここでは、モダリティ標識説について概観したい。

鄭榮（2005）は、曹逢甫・鄭榮（1995）および曹逢甫（1998）にならい、閩南語や標準中國語と對照させつつ、臺灣客家語の「有」の語義を整理し、動詞句・形容詞句に前置する「有」が「買」などの非状態動詞に用いられる場合は、曹逢甫（1998）の指摘するところの已然を、「靚」（美しい）などの状態動詞、つまり靜的事態に用いられる場合は、強調をあらわすモダリティ標識とみなしている（圖表1参照）。この見解には、筆者もおおむね同意するものであるが、つぎのような二つの問題を指摘できる。一つ目は強調についてのもので、上述した先行研究同様、強調が事態の程度についてのものか、事態の存在についてのものかがやや曖昧という點と、その解釋が生じる原因を説明していないこと、二つ目は、四縣客家語・大埔客家語など、その差異を論ずることなく複数の下位方言をひとまとめにしてあつかっていることである¹⁶⁾。一つ目の點については、たとえば、林立芳（1997：209-210）も梅縣客家語の「有」を、動作行爲の存在を肯定するモダリティ標識とみなし、完了相標識という見解を否定している。しかし、やはり状態動詞についての考察を缺いており、これが事態の肯定であるかあるいは程度などの強調であるかについては言及していない。

圖表1 標準中國語・閩南語・客家語における「有」（鄭榮 2005：33）

	標準中國語	閩南語	客家語	備考
所有	我有三塊錢	我有三籠銀	我有三e銀	= 例文 (4)b
存在	桌子有四隻腳 (屋內) 有客人	桌仔有四枝腳 (厝內) 有儂客	桌仔有四隻腳 (屋肚) 有人客	机には脚が4本ある = 例文 (4)a
出現	有人來了	有儂來啊	有人來le	= 例文 (4)c
已然	*我有買趙教授的書 我沒有買趙教授的書	我有買趙教授e冊 我無買趙教授e冊	我有買趙教授e書 我無買趙教授e書	≠ 例文 (4)d 私は趙教授の本を買っていない。
強調	*花有漂亮	花有水	花有靚	花はきれいだ。

「形式動詞」の部分は割愛した。

上述した閩南語・客家語の研究状況をふまえ、以下、本論では対象を海陸客家語にしほり、上記先行研究のモダリティ標識説に依據しつつ、特に状態動詞についての「強調」という解釈について、その意味とそれが生じるメカニズムについて考察することにする。

3. 海陸客家語の「*ʒiu*⁵³有」

本章では、海陸客家語の動詞前置の「有」を語義にもとづいて整理し、その使用条件も合わせて考察する。まず、3. 1. では実現をあらわす「有」について、3. 2. では「有」の部分的指示機能について、3. 3. では使用条件について論じ、3. 4. では強調機能の発生のメカニズムについて考察する。

3. 1. 事態の実現をあらわす「有」

事態の実現をあらわす「有」について、以下の三点を指摘したい。

- ① 事態が実現したことをあらわし、その完結については言及しない。
- ② 未来時制とは基本的に矛盾するが、条件があれば使用することは不可能ではない。
- ③ アスペクト専用標識と併用できる。

以下、個別に詳細を検討する。

まず、「有」は、臺灣閩南語と同様、事態が実現済みであることを意味する。事態が完結したか否かについては言及しない。たとえば、例文(11)は活動型事態が実現していることをあらわしている。(11)aでは「*tʰuk*³² *ʒu*⁵³讀書」(学校で勉強する)という行為が完了していないことを、(11)bではそれが完了していることをあらわしているが、いずれも「有」を使用することができる。また、例文(12)は、劉綺紋(2006: 23-24)の**ことば**を借りれば「潜在的に過程をもつ點的事態」であり、この場合は「*hi*²¹ *mi*³⁵⁻³³ *kuet*⁵去米國」(アメリカに行く)という事態がすでに起きていることをあらわしている。(12)aは到達点であるアメリカに到着していないために、その事態が完了しておらず、一方、(12)bは、それがすでに完了していることをあらわしている¹⁷⁾。また、例文(13)aは「*kʰon*²¹ *to*³⁵⁻³³ *ki*⁵⁵看倒佢」(彼を見かける)、(13)bは「*sia*³⁵⁻³³ *tʰet*⁵寫掉」(書いてしまう)という點的事態である。點的事態は、多くの場合その行為がおきるとともにおわるので、

この場合は、閩南語と同様に事態が完了していると解釋できる。例文 (14) は靜的事態である。前述した閩南語についての Yue (2011) の指摘のように、靜的事態について「有」が強調を意味するか否かについては、検討の餘地がある (後述)。

(11) a. ki⁵⁵ ziu⁵³ t^huk³² ju⁵³, tsuŋ³⁵ he²¹ maŋ⁵⁵ pit³² ŋiap³²

佢 有 讀書 總係 冇 畢業。

3SG YOU 學校で勉強する しかし NEG 卒業する

(彼／彼女は學校で勉強しているが、まだ卒業していない。)

b. ki⁵⁵ ziu⁵³ t^huk³² ju⁵³, zi³⁵⁻³³ kin⁵³ pit³² ŋiap³² le⁵³

佢 有 讀書 已經 畢業 了。

3SG YOU 學校で勉強する すでに 卒業する ANT

(彼／彼女は學校で勉強しており、もう卒業した。)

(12) fjoŋ⁵³ sam⁵³ ziu⁵³ hi²¹ mi³⁵⁻³³ kuet⁵ mo⁵⁵?

張三 有 去 米國 無？

[人名] YOU 行く アメリカ NEG (張三はアメリカに行っているか?)

a. — fjoŋ⁵³ sam⁵³ ziu⁵³ hi²¹ mi³⁵⁻³³ kuet⁵.

張三 有 去 米國。

[人名] YOU 行く アメリカ

tsuŋ³⁵ he²¹ ki⁵⁵ han⁵⁵ maŋ⁵⁵ to²¹ mi³⁵⁻³³ kuet⁵.

總係 佢 還 冇 到 米國。

しかし 3SG まだ NEG つく アメリカ

(張三はアメリカに行ったが、彼はまだアメリカについていない。)

b. — fjoŋ⁵³ sam⁵³ ziu⁵³ hi²¹ mi³⁵⁻³³ kuet⁵. tsuŋ³⁵ he²¹ zi³⁵⁻³³ kin⁵³ fjoŋ³⁵ loi⁵⁵ le⁵³.

張三 有 去 米國。 總係 已經 轉 來了。

[人名] YOU 行く アメリカ しかし すでに もどる くる ANT

(張三はアメリカに行っている。しかしもうもどってきた。)

(13) a. ts^ha⁵³ pu⁵³ ŋit⁵ ŋai⁵⁵ ziu⁵³ k^hon²¹ to³⁵⁻³³ ki⁵⁵

昨晡日 我 有 看 倒 佢。

昨日 1SG YOU 見る PHA 3SG

(昨日わたしは彼／彼女を見かけた。)

b. $\eta i^{55} kai^{21} tsok^{5-32} \eta iap^{32} \zeta iu^{53} sia^{35-33} t^{h}et^{5} mo^{55}?$

你 個 作業 有 寫 掉 無？

2SG CL 宿題 YOU 書く COM NEG

(あなたの宿題はやり終えたか?)

— $kuet^{5-32} vun^{55} \zeta iu^{53} sia^{35-33} t^{h}et^{5} le^{53}, su^{21} hok^{32} han^{55} maŋ^{55} sia^{35-33} t^{h}et^{5}$

國文 有 寫 掉了, 數學 還 冇 寫 掉。

國語 YOU 書く COM ANT 數學 まだ NEG 書く COM

(國語はやり終えたが、数学はまだやり終えていない。)

(14) a. $ki^{55} \zeta iu^{53} tai^{21} lia^{55} vui^{33}$

佢 有 □ □位。

3SG YOU 住む ここ (彼/彼女はここに住んでいる。)

b. $kin^{53} pu^{53} \eta it^{5} \zeta iu^{53} toŋ^{53} \eta iet^{32}$

今晡日 有 當 熱。

今日 YOU とても 暑い (今日はとても暑い。)

つぎに指摘すべきことは、「有」が未来時制とは基本的に矛盾していることである。例文(15)a、(16)aでは、「 $t^{h}ien^{53} koŋ^{53} \eta it^{5}$ 天光日」(明日)という未来をあらわす成分があるために、実現ずみの標識「有」があると非文になるが、例文(15)bは現在時の「 $kin^{53} pu^{53} \eta it^{5}$ 今晡日」(今日)であるために「有」の使用が可能である。ただし、未来時制をあらわす成分があっても、「 $\zeta in^{21} koi^{53}$ 應該」(はずだ)などの認知的モダリティ標識がある場合も「有」の使用が可能となる(例文16b)¹⁸⁾。

(15) a. * $t^{h}ien^{53} koŋ^{53} \eta it^{5} ha^{53} k^{h}o^{21}, \zeta iu^{53} hi^{21} k^{h}on^{21} t^{h}ien^{33} \zeta aŋ^{35}$

天光日 下課, 有 去 看 電影。

明日 授業が終わる YOU 行く 見る 映畫

b. $kin^{53} pu^{53} \eta it^{5} ha^{53} k^{h}o^{21}, \zeta iu^{53} hi^{21} k^{h}on^{21} t^{h}ien^{33} \zeta aŋ^{35}$

今晡日 下課, 有 去 看 電影。

今日 授業が終わる YOU 行く 見る 映畫

(今日授業が終わってから映畫を見に行っている。)

(16) a. * t'hien⁵³ koŋ⁵³ ŋit⁵ lia⁵⁵ kai²¹ ʃi⁵⁵ tsiet⁵ ki⁵⁵ ʒiu⁵³ to²¹ t'hoi⁵⁵ pet⁵

天光日 □ 個 時節 佢 有 到 臺北。

明日 これ CL とき 3SG YOU 着く 臺北

b. t'hien⁵³ koŋ⁵³ ŋit⁵ lia⁵⁵ kai²¹ ʃi⁵⁵ tsiet⁵ ki⁵⁵ ʒin²¹ koi⁵³ ʒiu⁵³ to²¹ t'hoi⁵⁵ pet⁵

天光日 □ 個 時節 佢 應該 有 到 臺北。

明日 これ CL とき 3SG AUX YOU 着く 臺北

(明日の今ごろ彼／彼女は臺北に着いているはずだ。)

三つ目として、アスペクト専用標識と併用が可能である点を指摘したい。特に、曹逢甫(1998)の臺灣閩南語についての指摘同様、非完了(imperfective)の標識との併用が可能なことから、海陸客家語の「有」も完了相標識ではないことがわかる。海陸客家語のアスペクト専用標識は、圖表2のとおりである(遠藤2010)。

圖表2 海陸客家語のアスペクト専用標識

完了(perfective)		非完了(imperfective)	
完結相(completive)	-t'et ⁵ 掉 ¹⁹⁾	進行相(progressive)	t ^h o ⁵³ lia ⁵⁵ 坐□- ²⁰⁾
既然相(anterior/perfect)	le ⁵³ 了#		t ^h o ⁵³ kai ⁵⁵ 坐□-
經驗相(experiential)	-ko ²¹ 過	持續相(continuous)	-nen ³⁵ □

アスペクトの定義はBybee(1994:317-318)による。

完了相(perfective)と習慣相(habitual)については、専用標識は存在しない。前者については、文中に数量詞などの量的成分や到達点などの限界(endpoint)が存在する場合、文全體で完了相をあらわしていると解釋される。たとえば例文(17)では「lioŋ³⁵ von³⁵兩碗」(二杯)が限界となっている。また後者については、「mui⁵³ ŋit⁵毎日」など、語彙的な限定が条件となる(例文18)。

(17) ŋai⁵⁵ ʃit³² lioŋ³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ t'hiau⁵⁵

我 食 兩 碗 飯條。

1SG 食べる 2 CL ライスヌードル (わたしはライスヌードルを二杯食べた。)

(18) ŋai⁵⁵ mui⁵³ ŋit⁵ ʃit³² lion³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ t^hiau⁵⁵

我 毎日 食 兩 碗 板條。

1SG 毎日 食べる 2 CL ライスヌードル

(わたしは毎日ライスヌードルを二杯食べる。)

つぎにアスペクト標識との併用の例を確認しよう。まず完結相・已然相などの完了系アスペクト標識との併用である。「有」は完結相標識「t^het⁵掉」(例文19)、已然相標識「le⁵³了」(例文20)、経験相標識「ko²¹過」(例文21)と併用が可能である。また、専用標識のない、全體で完了相をあらわす文においても使用できる(例文22)。

(19) ŋai⁵⁵ ʒiu⁵³ ʃit³² t^het⁵ lion³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ t^hiau⁵⁵

我有食掉兩碗板條。

1SG YOU 食べる COM 2 CL ライスヌードル

(わたしはライスヌードルを二杯食べおわっている。)

(20) ʃon⁵³ sam⁵³ ʒiu⁵³ hi²¹ mi³⁵⁻³³ kuet⁵ le⁵³

張三 有 去 米國 了。

[人名] YOU 行く アメリカ ANT (張三はアメリカに行ってしまった。)

(21) ŋai⁵⁵ ʒiu⁵³ hi²¹ ko²¹ t^hoi⁵⁵ pet⁵

我有去過臺北。

1SG YOU 行く EXP 臺北 (わたしは臺北に行ったことがある。)

(22) ŋai⁵⁵ ʒiu⁵³ ʃit³² lion³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ t^hiau⁵⁵

我有食兩碗板條。

1SG YOU 食べる 2 CL ライスヌードル

(わたしはライスヌードルを二杯食べた。)

つぎは非完了系アスペクト標識との併用についてである。「有」は進行相標識「ts^ho⁵³ kai⁵⁵坐□」(例文23)、持續相標識「nen³⁵□」(例文24)と併用が可能である。また習慣相と解釋される文中でも使用できる(例文25)。

(23) ʃoŋ⁵³ sam⁵³ ʃau⁵³ ʃin⁵⁵ ʃip³² tiam³⁵ ʒiu⁵³ tsʰo⁵³ kai⁵⁵ kʰon²¹ ʃu⁵³ mo⁵⁵?

張三 朝晨 十點 有 坐□ 看 書 無?

[人名] 朝 10時 YOU PRO 讀む 本 NEG

(張三は朝10時に本を讀んでいたか。)

— ki⁵⁵ ʒiu⁵³ tsʰo⁵³ kai⁵⁵ kʰon²¹ ʃu⁵³

佢 有 坐□ 看 書。

3SG YOU PRO 讀む 本 (彼は本を讀んでいた。)

(24) ki⁵⁵ ʒiu⁵³ kʰi⁵³ nen³⁵, ɲai⁵⁵ ʒiu⁵³ tsʰo⁵³ nen³⁵

佢 有 企 □・我 有 坐 □。

3SG YOU 立つ CON 1SG YOU 座る CON

(彼／彼女は立っており、わたしは座っている。)

(25) ɲai⁵⁵ mui⁵³ ɲit⁵ ʒiu⁵³ ʃit³² lion³⁵ von³⁵ pan³⁵⁻³³ tʰiau⁵⁵

我 毎日 有 食 兩 碗 板條。

1SG 毎日 YOU 食べる 2 CL ライスヌードル

(わたしは毎日ライスヌードルを2杯食べている。)

以上の事例から、「有」は少なくとも完了相標識ではないことを確認できた。

3. 2. 部分指示機能と強調

鄭繁(2005)は客家語の「有」について、形容詞などの状態動詞に前置する場合は強調であると指摘している。しかし、実際はそれほど単純ではない。筆者の調査によれば、海陸客家語の「有」は事態の存在の強調でも程度の強調でもなく、Yue(2011)の指摘のように、部分指示である場合がある。

これには、「有」が靜的事態を指示する形容詞に前置される場合(例文26、27a、28a)と、条件節にあらわれる場合(例文29a)の、少なくとも二通りがある。前者は、形容詞が指示する状態が部分的に存在していることをあらわしている。ゆえに、例文(26)~(28)は、それぞれ「赤味をおびている」(例文26)、「甘みがある」(例文27a≠例文27b)、「いくらか寒い」(例文28a≠例文28b)などと解釋できる。また、条件節の場合であるが、例文(29)bでは授業が通常通り終わることのみを含意しているのに對し、例文(29)aでは、「通常通り終わる」お

よび「通常通り終わらない（延長する）」という二つの可能性のうち、前者の可能性を述べている。つまり、二つの選択肢全體のうちの一方の選択肢という部分的事態を指示しているのである。

(26) lia⁵⁵ lui⁵³ fa⁵³ ʒiu⁵³ fuŋ⁵⁵, tsuŋ³⁵ he²¹ m⁵⁵ he²¹ {tsui²¹ / toŋ⁵³} fuŋ⁵⁵ kai²¹

□ 蕊 花 有 紅， 總係 唔 係 {最 / 當} 紅 個。

これ CL 花 YOU 赤い しかし NEG COP もっとも / とても 赤い CL

(この花は赤いが、{もっとも / とても}赤いものではない。)

(27) a. lia⁵⁵ ʃak⁵ kam⁵³ mə⁵⁵ ʒiu⁵³ t^hiam⁵⁵, tsuŋ³⁵ he²¹ mo⁵⁵ kai⁵⁵ ʃak⁵ an⁵³ t^hiam⁵⁵

□ 隻 柑仔 有 甜， 總係 無 □ 隻 □ 甜。

これ CL ミカン YOU 甘い しかし NEG あれ CL それほど 甘い

(このミカンは甘いが、あれほど甘くはない。)

b. lia⁵⁵ ʃak⁵ kam⁵³ mə⁵⁵ t^hiam⁵⁵ he²¹ t^hiam⁵⁵,

□ 隻 柑仔 甜 係 甜，

これ CL ミカン 甘い COP 甘い

tsuŋ³⁵ he²¹ mo⁵⁵ kai⁵⁵ ʃak⁵ an⁵³ t^hiam⁵⁵

總係 無 □ 隻 □ 甜。

しかし NEG あれ CL それほど 甘い

(このミカンは甘いことは甘いが、あれほど甘くはない。)

(28) a. kin⁵³ pu⁵³ ŋit⁵ ʒiu⁵³ laŋ⁵³, tsuŋ³⁵ he²¹ ŋai⁵⁵ m⁵⁵ si³⁵⁻³³ ʃok⁵⁻³² mo⁵³ sam⁵³

今晡日 有 冷， 總係 我 唔使 著 毛衫。

今日 YOU 寒い しかし 1SG NEG 着る セーター

(今日は（いくら）寒いが、わたしはセーターを着る必要はない。)

b. kin⁵³ pu⁵³ ŋit⁵ toŋ⁵³ laŋ⁵³, tsuŋ³⁵ he²¹ ŋai⁵⁵ m⁵⁵ si³⁵⁻³³ ʃok⁵⁻³² mo⁵³ sam⁵³

今晡日 當 冷， 總係 我 唔使 著 毛衫。

今日 とても 寒い しかし 1SG NEG 着る セーター

(今日はとても寒いが、わたしはセーターを着る必要はない。)

(29) a. t^hien⁵³ koŋ⁵³ ŋit⁵ ʒiu⁵³ ha⁵³ k^ho²¹, si³³ loi⁵³ hi²¹ k^hon²¹ t^hien³³ ʒaŋ³⁵

天光日 有 下課・ □ □去 看 電影。

明日 YOU 授業が終わる すぐ 行く 見る 映畫

(明日 (いつも通りの時間に) 授業が終わるようなことがあれば、私は映畫を見に行く。)

b. t^hien⁵³ koŋ⁵³ ŋit⁵ ha⁵³ k^ho²¹, si³³ loi⁵³ hi²¹ k^hon²¹ t^hien³³ ʒaŋ³⁵

天光日 下課・ □ □去 看 電影。

明日 授業が終わる すぐ 行く 見る 映畫

(明日授業が終わったら、私は映畫を見に行く。)

このような現象は、「有」が本来全體の中の部分を指示する機能をもっていることと関係している。鄭榮 (2005: 41) は、名詞性の目的語をもつ「有」は部分的存在をあらわすと指摘している。たとえば標準中國語の例文 (30)aは、机の上には本以外のものが存在していることを含意している。一方、例文 (30)bでは机の上には本しかない。

(30) a. 桌上有書。 (机の上には本がある)

b. 桌上是書。 (机の上は本 (だけ) である。)

また、蔡維天 (2002) は、標準中國語の「有的人」と「有些人」を分析し、前者は部分指示 (分指, *partitive*) であり、後者は特定指示 (殊指, *specific*) であるとしている。いずれにせよ、上述した例からも明らかのように、「有」には全體の中の部分を指示する機能があるといえるだろう。なお、部分指示と事態の存在の強調とは矛盾しないはずである。どちらが顕著になるかは前後関係による可能性がある。

3.3. 「有」が使用されやすい条件

閩南語の「有」の使用条件については、先行研究では明確にされていない²¹⁾。しかし、海陸客家語の「有」には使用されやすい条件が少なくとも二つある。一つはYes-No疑問文とその回答 (例文31~33)、もう一つは對比 (例文

34、35) である。これらは事態の存在の肯定あるいは強調であると解釈できる。強調であっても、静的事態にかぎらない。また、このような「有」は一般的に省略しない。

3. 3. 1. Yes-No疑問と回答

例文 (31)～(33) のうち、例文 (31) は進行相標識を伴う非状態動詞、後二者は状態動詞である。このような平叙文の「有」は、Yes-No疑問文という前提が必要である。

- (31) ʃoŋ⁵³ sam⁵³ ʃau⁵³ ʃin⁵⁵ ʃip³² tiam³⁵ ʒiu⁵³ tsʰo⁵³ kai⁵⁵ kʰon²¹ ʃu⁵³ mo⁵⁵?
 張三 朝晨 十點 有 坐□ 看 書 無?
 [人名] 朝 10時 YOU PRO 読む 本 NEG
 (張三は朝10時に本を讀んでいたか。)

— ki⁵⁵ ʒiu⁵³ tsʰo⁵³ kai⁵⁵ kʰon²¹ ʃu⁵³ = 例文 (23)
 佢 有 坐□ 看 書。
 3SG YOU PRO 読む 本 (彼は本を讀んでいた。)

- (32) ŋi⁵⁵ ʒiu⁵³ ʃit⁵⁻³² ki⁵⁵ mo⁵⁵ — ŋai⁵⁵ ʒiu⁵³ ʃit⁵⁻³² ki⁵⁵
 你 有 識 佢 無? 我 有 識 佢。
 2SG YOU 知っている 3SG NEG 1SG YOU 知っている 3SG
 (あなたは彼／彼女を知っているか? - 私は彼／彼女を知っている。)

- (33) ʃu⁵³ ŋiuk⁵ ʒiu⁵³ pʰui⁵⁵ mo⁵⁵ — ʃu⁵³ ŋiuk⁵ ʒiu⁵³ pʰui⁵⁵
 猪肉 有 肥 無? 猪肉 有 肥。
 豚肉 YOU 脂身が多い NEG 豚肉 YOU 脂身が多い
 ((その) 豚肉は脂身が多いか? - (その) 豚肉は脂身が多い。)

この傾向は、「有」が動補構造（動詞＋結果／方向補語）の間に出現する場合により顕著である。「V有R」構造は、問いかけなどの前提がなければ使用できない有標形式である。

- (34) so²¹ ʒiu⁵³ tʰiaŋ³³ mo⁵⁵ so²¹ ʒiu⁵³ tʰiaŋ³³ le⁵³
 掃 有 淨 無? — 掃 有 淨 了。
 掃く YOU 清潔だ NEG 掃く YOU 清潔だ ANT

(きれいに掃除をしたか?—きれいに掃除をした。)

- (35) tʰut⁵⁻³² tet⁵⁻³² kim⁵³ mo⁵⁵ tʰut⁵⁻³² ʒiu⁵³ kim⁵³ le⁵³
 □ 得 金 無? — □ 有 金 了。
 ふく できる びかびかだ NEG ふく YOU びかびかだ ANT

(びかびかにふけるか?—びかびかにふいてある。)

3.3.2. 對比

以下は二つの項目を對比している。例文 (36) は行くか行かないかについて、例文 (37) は美しいかそうでないかについてである。

- (36) ʒiu⁵³ hi²¹ mo⁵⁵ hi²¹ mo⁵⁵ kuan⁵³ he²¹
 有 去 無 去 無 關係。

YOU 行く NEG 行く NEG 關係 (行っているかいないかは関係がない。)

- (37) ʒan⁵⁵ fun³³ to²¹ le⁵³, moi²¹ ə⁵⁵ tʰi³³ ʒan⁵⁵ oi²¹ ka²¹, kon³⁵⁻³³ ki⁵⁵ ko⁵³ ai³⁵ pʰui⁵⁵

緣份 到 了, 妹仔 自然 愛 嫁, 管 佢 高 矮 肥

縁 至る ANT 娘 おのずと AUX 嫁ぐ かまう 3SG 高い 低い 太っている

seu²¹, ʒiu⁵³ tʰiaŋ⁵³ ʒa³³ mo⁵⁵ tʰiaŋ⁵³

瘦, 有 靚 也 無 靚。

痩せている YOU きれい あるいは NEG きれい

(『一日一句客家話』 p.2)

(縁がやってくれば、娘はおのずと嫁ぐ。その人が、背が高いとか低いとか、太っているとか痩せているとか、かっこういいとか悪いとかにこだわって(どうするんだ)。)

3.3.3. その他

このほか、前後関係から事態の存在を強調するために「有」を選択することがある。例文 (38) では、話し手自身がアオダイショウをつかまえたことを信じてない聞き手に、さらにほかの事実を提示しようとしているが、その部分で「有」

が使われている。また例文(39)では、「佢」(彼女)が芝居を學んだことを「有るか」という質問に對する回答で、最初の「hok³² ko²¹學過」の前には「有」がないが、つぎの「學過」には「toŋ⁵³ ʒan⁵⁵當然」とともに「有」が付されている。これは、「學過」という事態の存在を強調しているのである。このことから、曹逢甫(1998)が臺灣閩南語についてすでに指摘しているように、海陸客家語の「有」にも、非靜的な事態について、その事態の存在を強調する機能もあるといえる。

- (38) ŋi⁵⁵ t^haŋ²¹ ŋai⁵⁵ koŋ³⁵ ma²¹. han⁵⁵ ʒiu⁵³ a³³, ki⁵⁵ ʒiu⁵³ pun⁵³ ŋai⁵⁵ t^hap⁵ to²¹
 你 聽 我 講 嘛。 還 有 啊、 佢 有 分 我 踏 到
 2SG 聞く 1SG 話す PAR さらに ある PAR 3SG YOU ~される 1SG ふむ 到る
 ʃui³⁵⁻³³ teu²¹ tu³⁵ hi²¹, han⁵⁵ kin³⁵ t^hin⁵³ t^huŋ⁵³ e²¹
 水 竇 肚 去、 還 緊 □動 □。

水の中 行く さらに しきりに 動く PAR (『一日一句客家話』 p.27)

(おれの話聞きなよ。それにな、やつ(=アオダイショウ)は、おれにふまれて水の中に落ちて、それでもしきりに動いていたんだ。)

- (39) ki⁵⁵ ʒiu⁵³ hok³² ko²¹ ka³⁵? hok³² ko²¹, toŋ⁵³ ʒan⁵⁵ ʒiu⁵³ hok³² ko²¹.
 佢 有 學 過 □? — 學 過、 當 然 有 學 過。
 3SG YOU 學ぶ EXP PAR 學ぶ EXP もちろん YOU 學ぶ EXP

(彼女は(芝居を)學んだことがあるのか?—學んだことがある。もちろん學んだことがあるよ。) (『海陸客家語短篇故事第三集』 p.134)

上述のように、「有」の使用には、なんらかの前提が必要であることが指摘できよう。

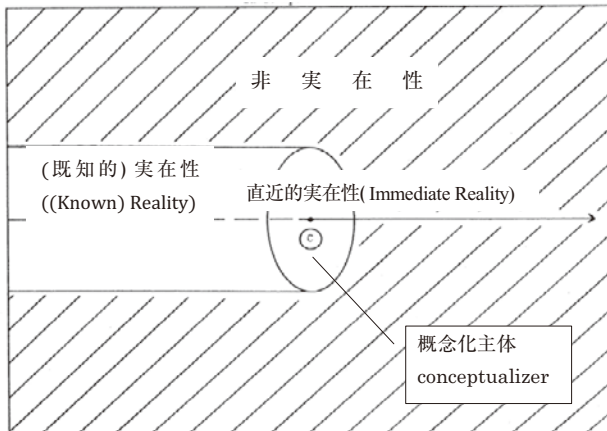
3.4. 強調について

まず、海陸客家語の「有」の強調の機能とは、事態の存在を強調するものであり、程度を強調するものではないということを確認しておく。そこで、強調という解釋がなされるメカニズムについて、Langacker(1991)の基本認知モデル(Basic Epstemic Model)(圖表3)で説明をこころみたい。このモデルでは、

状況が概念化主體（conceptualizer）により實在的（real）、あるいは非實在的と認識される。實在性は時間の経過とともにたえず生成發展する動的なもので、圖表3では右方向に伸びようとする圓筒で示されている。圓筒の最前部は、概念化主體が事態を直接とらえることができる直近的實在性の領域である。

このモデルでは、「有」は實在性（reality）の領域で作用する。ただし、この領域では、事態の實現や存在の状況について述べるアスペクト（標識）も作用する。アスペクト標識をともなう文はもとより、海陸客家語の場合、文中にアスペクト標識がなくても、數量詞など、なんらかの限界があれば完了相を示すことができる。また、形容詞などで指示される靜的事態は、もとよりその事態が存在していることが前提だろう。このような文は、實在性という點ですでにその条件を満たしている。そこに事態が實現済みであるとする標識「有」が用いられると、實在性の重複がおこる。これは情報的に餘剰であり、それゆえ動詞句が指示する事態の存在の強調という解釋がなされると考えられる。また、情報の餘剰性ゆえに「有」の使用は義務的ではない。換言すれば、命題的信息については、本来アスペクト標識のみで十分であるところに、話し手の判断に基づき肯定・強調のために「有」をくわえているわけである。つまり「事柄に対する知覺や感情をあらわしたりする」（澤田 2006 : 2）ために、「有」は用いられているのである。

圖表3 Langacker (1991 : 242) の基本認知モデル



4. おわりに

以上の分析・考察から、海陸客家語の動詞前置の「有」について以下の三點が明らかになった。

- ① 「有」は、話し手がある事態が実現済み (realis) であると判断していることをあらわす。つまり實在性の領域に属することをあらわすモダリティ標識である。強調は、實在性の重複を通してここから派生したもので、事態の程度ではなくその存在を強調している。
- ② 「有」は、条件節あるいは状態動詞（形容詞）の前で用いられるとき、部分的状況をあらわす場合がある。つまり、程度ではなく、単にある事態の部分的な存在を示している。
- ③ 「有」には、使用されやすい条件が少なくとも二つある。一つはYes-No疑問文とその答え、もう一つは対比である。

第三點は、「有」の使用についてなんらかの制約が付されるということであり、有標であるといえる。この有標性は、實在性の重複という情報の餘剰性と関係があろう。つまり、「有」がなくとも實在性を満たしている文は無標であるが、それに實在性をともなう標識をさらに付加すると、實在性についての情報が過剰となった有標の文になる。この有標性ゆえに、談話レベルでの使用に制約がつくと考えられる。

以上のように、本論では、海陸客家語の「有」は、全體の傾向としては臺灣閩南語の「有」と並行しているが、それに加えて部分指示性や使用条件があることが改めて明らかになった。假に、閩南語の「有」に使用条件が認められず、中立な性質をもつことが確認できれば、海陸客家語の「有」は、それよりも制限が大きいものとなる。今後は、引き続きデータ収集と分析を行うとともに、客家語はもとより、南方漢語全體の「有」の様相について考察を進めることをさらなる課題としたい。

注)

- 1) 本論は、IACL-20 (2012年8月30日、香港理工大學) で発表した「臺灣海陸客語的「有+V」」、ならびに中日理論言語學國際フォーラム2013 (2013年7月14日、同志社大學) で発表した「南方漢語のアスペクト體系と「有」-臺灣海陸客家語を中心に-」

の原稿を加筆修正したものである。また、本論は、平成21年度～23年度科学研究費補助金（基盤研究（C））および中央大學2014年度共同研究費による研究成果の一部である。

- 2) 動詞句に前置する「有」は、臺灣閩南語などの影響を受けている臺灣華語（臺灣の標準中國語）でも常用されるが、近年は中國の標準中國語でも用いられるようである。筆者が、臺中科技大學應用中文系助理教授張群氏からうかがったところでは、2014年夏の段階で、北京出身の中年層でも使用していたとのことである（2014年8月27日の談話）。また、2013年にも、同様のことがらを、中國の東北地方出身である20代の中國人留學生から聞いた。この種の「有」が、標準中國語あるいは北方漢語で普及した原因については、なお詳細な検証が必要であるが、要因の一つとして、臺灣のテレビドラマの、中國における放映を挙げることができるだろう。
- 3) 海陸客家語は、臺灣北部の新竹・桃園の各縣を中心として使用されている。海陸客家人は、廣東省東部の海豐・陸豐兩縣を中心とした地域から渡臺しており、「海陸」という名稱はそれに由來する。
- 4) 本文中で各言語の形態素等について言及するときは「音聲表記（ローマ字またはIPA）+漢字表記」とするが、すでに一度音聲表記を提示している場合は漢字表記のみとする。たとえば、「*ziu*⁵³有」は*ziu*⁵³がIPAによる音聲表記、「有」が漢字表記である。
- 5) 詹智川氏には、調査開始から一貫して協力していただいている。ここに改めて謝意を表したい。
- 6) 編著者である詹益雲氏から、本書の電子データを無償で提供していただいた。ここに記して感謝の意としたい。
- 7) 注2で紹介した張群氏は閩南語母語話者であるが、張氏の指摘によれば、臺灣閩南語の「有」は事態の實現等ではなく、その程度を強調するという。たとえば、「*I ũ súi*伊有水」を英譯すると、“He is very beautiful.”となり、「有」はveryに相當するという。この見解は、以下で紹介する鄭良偉・曹逢甫兩氏の見解とはややずれており、世代差や方言差を反映している可能性がある。
- 8) Realis modality can be optionally marked by Tw *ũ* ‘have, do, did’; this denotes an emphatic affirmation of the existance or occurrence of an event in the past or present, and occur in stative as well as in active predicates (Cheng 1985: 358)。臺灣話的“有”宜稱為某語境(或某情況 situation) 的實現 (realis) 或存在 (existential) 時態, 和非實現 (irrealis) 或非存在對立 (鄭良偉 1992 : 228)。凡是回顧既往或觀察現況都可用“有”強調情況或語境的存在 (鄭良偉 1992 : 228)。
- 9) これに對し、北京官話では、已然である過去の特定の事態については標識「了」を義務的に使用するが、未然の事態については、標識は必ずしも必要ではない (Cheng 1985: 357)。
- 10) 例文には音聲表記・正體字(繁體字)による漢字表記(漢字表記が存在しないか未確定の音節は「□」を使用)、對譯語または略號・日本語譯を付す。閩南語の例文

はすべて先行研究からの引用であるが、音聲表記は教會ローマ字に統一し、漢字表記も場合に應じて変更している。海陸客家語については、音聲表記はIPAとする（聲調は、陰平53、陽平55、上聲35、陰去21、陽去33、陰入5、陽入32）。略號は、以下の通り。ANT：既然相（anterior）標識、AUX：助動詞（auxiliary）、CL：類別詞（classifier）、COM：完結相（completive）標識、CON：持續相（continuous）標識、COP：コピュラ（copula）、EXP：經驗相（experiential）標識、NEG：否定詞（negative）、PAR：助詞（particle）、PHA：動相補語（phase complement）、PRO：進行相（progressive）標識、REL：關係節（relative）標識、YOU：「有」、1SG：第一人稱單數、2SG：第二人稱單數、3SG：第三人稱單數、*：非文。

- 11) 如果是站在現在的觀點觀察現在或過去，已實現（realis）之狀況則用“有”（或其否定詞“無”）（曹逢甫 1998：321）。
- 12) “有”是情態動詞・時貌意義是“有”與各類情境互動之後衍生的用法（曹逢甫 1998：326）。
- 13) Minnan stands out in contrast to both Mandarin and Yue in possessing a verbal construction to express the perfect by means of the verb *wu2* ‘have, exist’ which is cognate to Mandarin you（有）. *Wu2* is a preverbal auxiliary which retains its full tonal value（Chappell 1992: 80-81）。
- 14) 出現於動詞前面的‘有’表示這些動詞所指稱的動作或事件已經發生・出現於形容詞前面的‘有’則表示這些形容詞所指稱的狀態或變化已經存在（湯廷池 2000：203）。
- 15) このことから、アスペクトとモダリティはそれぞれ完全に獨立したカテゴリーではなく、相互に關連していることがわかる。たとえば、劉綺紋（2006）は標準中國語の「了」のアスペクト機能とモダリティ機能が認知的一體性を持っていることを指摘している。
- 16) 『苗栗縣客語故事集』（四縣客家語）・『東勢鎮客語故事集』（大埔客家語）等々をコーパスとして使用している（鄭榮 2005：32）。
- 17) 劉綺紋（2006：23-24）は、標準中國語の「去」「來」などは通常點的事態としてふるまうが、文脈によっては過程的事態としてふるまうと指摘している。例文（12）a は海陸客家語の例であるが、まさにこの指摘に當てはまっている。
- 18) 一定の前後關係のもとでは、未然のモダリティ標識「voi³³會」との併用も可能である。たとえば「[hi²¹ sioŋ³³ po²¹ ko²¹ ziu⁵³ koŋ³⁵ kin⁵³ pu⁵³ ŋit⁵ ziu⁵³ voi³³ lok³² ju³⁵, ŋi⁵⁵ oi²¹ tai²¹ ŋa⁵³ a⁵⁵ hi²¹ 氣象報告有講今晡日（今天）有會落水（下雨）・你愛（要）帶遮仔（雨傘）去。】（天氣豫報で今日は雨が降るといっているの、あなたは傘をもってゆくべきだ。）では、「會」は「有」のスコープ内であり、「會落水」（雨が降るのであろう）という未然のモダリティを含む事態を肯定していると解釋できる。
- 19) 「掉」は動作行爲の時間的段階を示す動相補語であるともいえ、既然相標識の「了」と併用が可能である。
- 20) 進行相標識「tsʰo⁵³ lia⁵⁵坐□」「tsʰo⁵³ kai⁵⁵坐□」は、「動詞／前置詞「tsʰo⁵³坐」（～にい

る／～に) + 指示詞「lia⁵⁵□」(これ／ここ)・「kai⁵⁵□」(あれ／あそこ)」という構造であり、指示性を残している。

- 21) 前述の張群氏に確認したところ、閩南語の「有」は、使用條については中立であるとのことである。なお、この點については、さらなる確認が必要であろう。

參考文獻

- 遠藤雅裕 2010. 「臺灣海陸客家語のアスペクト體系」, 『現代中國文化の光芒』(中央大學人文科學研究所研究叢書49): 25-64.
- 澤田治美 2006. 『モダリティ』. 東京: 開拓社.
- 劉綺紋 2006. 『中國語のアスペクトとモダリティ』 大阪: 大阪大學出版會.
- 蔡維天 2002. 「臺灣國語和方言中的「有」——談語法學中的社會因緣與歷史意識」, 『清華學報』 32-2: 495-528.
- 曹逢甫・鄭榮 1995. 「閩南語「有」的五種用法及期間的關係」, 『中國語文研究』 11: 155-167. 香港: 香港中文大學吳多泰中國語文研究中心.
- 曹逢甫 1998. 「臺灣閩南語中與時貌有關的語詞“有”、“Ø”和“啊”試析」, 『清華學報』 28-3: 299-334.
- 黃丁華 1958. 「閩南方言裡的常用否定詞」, 『中國語文』 1958-4: 189-196.
- 林立芳 1997. 「梅縣方言的動詞謂語句」, 『動詞謂語句』: 195-211. 廣州: 暨南大學出版社.
- 湯廷池・湯志眞・邱明麗 1997. 「閩南語的「動貌詞」與「動相詞」」, 『橋本萬太郎紀念中國語學論集』 283-302. 東京: 內山書店.
- 鄭良偉 1992. 「臺灣話和普通話的時段-時態系統」, 『中國境內語言暨語言學』 1: 179-239.
- 鄭榮 2005. 「臺灣客語動詞「有」的語法特點與語法化」, 『臺灣語言教學與研究』 6: 31-47.
- Bybee, Joan, Revere Perkins & William Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: Tense, Aspect, and Modality in the Languages of the World*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Chappell, Hilary. 1992. Towards a typology of aspect in Sinitic languages. *Chinese Languages and Linguistics* 1: 67-106.
- Cheng, Robert L. (鄭良偉). 1985. A Comparison of Taiwanese, Taiwan Mandarin, and Peking Mandarin. *Language*. 61-2: 352-377.
- Comrie, Bernard. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Hashimoto, Manrato J. 1973 *The Hakka Dialect: A Linguistic Study of Its Phonology Syntax and Lexicon*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Langacker, Ronald W. 1991. *Foundations of Cognitive Grammar: Volume II: Descriptive Application*. Stanford: Stanford University Press.
- Palmer, F. R. 2001. *Mood and Modality*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yue, Anne O. 2011. Study of Grammar in Temporal and Spatial Perspectives: You3 有 in the OBI,

Ancient Documents and the Dialects. *Bulletin of Chinese Linguistics* (中國語言學集刊), 4-2: 1-79.

* *

作 者：遠藤 雅裕

Author：ENDO Masahiro

標 題：南方漢語的情態標記「有」— 以臺灣海陸客語為中心 —

Title：The Modality Marker 'You' 有 in Southern Sinitic Languages — some Cases of Taiwanese HoiIuik Hakka 臺灣海陸客家語 —

摘 要：閩客粵等南方漢語裡都有一個前置於動詞的「有」。這種「有」是在北方漢語裡見不到的。對於這種「有」的功能至少有三種學說，即：情態標記說、體貌標記說、過去時標記說。目前，前兩者是比較有說服力的。本文主要參考了臺灣閩南語「有」的先賢研究，針對臺灣海陸客語的這種「有」做了初步的分析，並發現如下三個特點。其一，「有」表示說話者認定某事件已經實現，與此事件的完成無關，是在現實性（reality）領域起作用的情態標記。其功能乃是強調或肯定事件的發生以及存在。其二，「有」置於狀態動詞前或條件分句裡，表示部分情況。其三，「有」至少有兩種使用條件，一種是用於是非疑問句及其回答，另一種是用於對比句。

關鍵詞：海陸客家語 「有」 情態 體